

山行報告



■納山会(新たんば荘)

- 日 程：12月13(土)～12月14(日)
- 集合場所・時間：山電高砂北8：30分・JR宝殿駅8：45分
JR加古川駅9：00分・滝野庁舎下9：50分



①コース：白髪岳～文保寺	◆参加者：L待場 SL和田 石田 井上 清水 田口(末) 田口(善) 田中(重) 中村 西脇 藤田 本多
②コース：松尾山～文保寺	◆参加者：L山本(正) SL上田 貝塚(文) 坂田(俊) 田羅間(勤) 中嶋 舩賀 峯山 山本(清)
③コース：音羽山～火とぼし山	◆参加者：L砂川(延) SL森本 尾越 坂田(敬) 瀬尾 荘所 平井(正) 前川(克) 三木(悦) 森下

①コース 行動記録

場 所	着	発
ストレッチ	10:55	11:05
登山口	11:20	
分岐点	11:34	11:40
第1ベンチ	12:07	12:15
白髪岳山頂	12:36	13:05
文保寺への分岐	13:42	
文保寺	15:10	

②コース 行動記録

場 所	着	発
住山分岐	10:50	11:05
阿弥陀堂	11:55	12:00
卵塔群	12:20	12:25
松尾山(昼食)	12:50	13:10
白髪・文保寺分岐	13:23	13:25
文保寺	14:00	14:10
バス停車場		15:05

③コース 行動記録

場 所	着	発
住山分岐		11:06
不動の滝	11:35	
石仏分岐	11:55	12:03
石仏分岐(経路修正)	12:15	
肩越の辻	12:26	
ピーク点昼食	12:40	13:00
鉄塔	13:10	13:25
肩越の辻(経路修正)	13:35	
音羽山	14:10	
火とぼし山	14:38	14:40
大沢城址	15:05	
祿庄城址	15:19	
八幡神社	15:31	

◆◆①コース 納山会に参加して～白髪岳コース

井上

寒波到来のニュースに、アイゼンや貼るカイロを用意した。でもアイスパーンは困るけど、チラチラ降る雪道を歩くのもいいな…と欲張りなことを期待していた。

陽射しがやわらかくとてもよいお天気。新たんば荘の送迎バス 1・2号車に分乗して2時間弱で、住山登山口に到着。全員で準備体操をして、各コースに分かれて出発。

白髪岳コースは12名。30分程針葉樹の林道を歩くと、あずま屋が見えて、白髪岳登山口に着く。急な尾根が30分程続く。椿の森(残念ながら花はついていない)や、銀の採鉱口(直径1m位)のそばを抜けると、ベンチがあった。汗ばんだ身体を休め、水分補給。

冷たい風が心地よい。見上げると澄みきった青空が広がり、木々の間から目指す白髪岳の岩肌、右手には松尾山も見える。登りやすい巻道を30分程歩くと721.5mの頂上。

瀬戸内海まで見える360度のパノラマの景色に出会え、幸せ一杯になった。おまけに、Tさんから焼き芋を頂いた。(猪の被害から、辛うじて収穫できた丹精込めた芋)寒風の当たらない陰で、お弁当をゆっくり食べた。



下山は、いきなり急な下り。スリル満点のロープ、鎖場を無事通過。落ち葉の絨毯を踏み、歩いてきた道を遠くに眺めながら文保寺分岐に出た。つもりが少し手前だったのか・・・?

文保寺という標識もあったが・・・? しばらく行くと道がない!! 引返したが、結局道なき道? を下る。60度位の勾配もあり、木につかまらないと滑り落ちそう。無我夢中で『一に安

全、二に安全』と言い聞かせながら、慎重に下った。登山道に出た時はホッとした。

文保寺を横目に急ぎ足で、待っているバスへ。立派な山門が印象的だった。"サバイバルもまた楽し、思い出深い楽しい山行になりました。

リーダー、サブリーダー様をはじめ、ご一緒させて頂いた皆様のお陰です。今年も感謝 感謝で無事に楽しい納山会に参加できましたこと、厚く御礼申し上げます。

◆◆②コース 納山会に参加して

中嶋

前日の予報では、寒気団南下で寒くなるとの報道が有り、アイゼンを携帯して参加した。

11時に現地到着、風は冷たいが幸い雪はなく、晴れて登山日和であった。全員でストレッチ後、3コースに分かれ出発する。②コースと③コースはしばらく前後になりながら山道を登る。

途中、不注意だったのか不動の滝の標識は見たが滝は確認できなかった。12時、阿弥陀堂跡で休憩し、ここで③コースと別れ、左折して松尾山を目指す。5分後、將軍屋敷跡の小さな祠があり、その右手方向に高仙寺本堂跡の広場があった。私達は、左折し進んで行くと僧侶の墓である卵塔群や多くの石仏が並んで有り、鎌倉時代には山岳大寺院であったことが伺い知れる。これより急登が続き13時、松尾山山頂(酒井城跡)に到着した。この山城は、明智光秀の丹波攻めに対抗する要城として築城されたが、今は遺跡も見当たらない。

ここで昼食を摂る。木々の間から味間の町が見えるが、風が冷たく早々に休憩は切り上げ文保寺を目指して下山する。以前は山城に通ずる道であったと思われる山道で比較的歩き易い。

14時5分に天台宗の古刹である文保寺に到着。(平成30年 建立1300年記念祭)の旗が立ち並ぶ参道を下る。駐車場にてストレッチ。2台のバスがすでに待機していたので車中で他の

班を待つ。15時過ぎには他の客の送迎予定が有るとのことで我々8名は、早いが宿舎まで送ってもらう。

翌日は、9時30分に新たんば荘を出発、大正ロマン館前で解散。市内自由探索する。

「私のお勧めコース」

＊ 鳳鳴酒造(ほろ酔い城下蔵)で新酒の試飲と酒蔵見学。

＊ だいじょうぶ屋(特定非営利活動法人“PUSバングラディシュの村を良くする会”)

店頭に「リキシヤ」を飾るバングラディシュ製衣料品販売店、岩下夫婦は、30年前より、バングラディシュで学校を建設し貧しい子供たちに教育を受けさせ

ようと活動している。最近、関西テレビ朝9時50分より放送の“よーいドン”の取材がありハイヒールモモコさんを「リキシヤ」に寄せ篠山市内を案内して撮影をしたという。放送は12月25日予定(この会報発行時は“あった”と過去形となる)岩下店長の“彼らには、子供は財産なのだ”(働き手、稼ぎ手の意味)という言葉が印象的だった。

＊ ペルー館 ペルーの物産販売と喫茶。冒険家の店主が入れるコーヒーは日本一うまいと貼りだしてある。ベルタ夫人は気さくで、陽気なペルー人である。此処にも3年前テレビ取材があったそうで、その時の写真には2人の娘さんも写っている。母親似のボニータ(スペイン語で可愛らしい美人の意)である。ペルーのこと、日本のこと等話を聞く。

＊ 十割そば“一休庵”名物のそばを食べ、酒も入った6人のミニ宴会であった。ベルタ夫人と写真を撮ろうと話がまとまり、再訪問して夫人とアルパカ人形を囲んで会報掲載写真を写し、来年又来店することを約束し各々握手する。

14:00 バス2台に分乗して帰路につきました。リーダーの皆様、参加された会員の皆様楽しい納山会を有難うございました。



◆◆③コース 2014年納山会に参加して

森下

この4月からの教室参加から、月例会並びに自主トレ及び女性会の山行を経験し、今年一年の色々なコースでの山行に感謝して、納山会に御一緒する機会を得て大変うれしく思います。

私は③コースで10名の方たちと一緒に音羽山を目指します。登山口より住山分岐点へ、途中きれいに整地された茶畑を見ながら歩を進め右手に不動の滝を眺めた。ただこの時期は水量がほとんどなく、“もしもっと寒かったら長いつらの滝が見られたのになあ”と、思いながら黙々と歩き、肩越の辻から音羽山へ登ります。

今日の丹波地方はずいぶん寒いとの予報でしたのに時々木漏れ日も射し暑いと云っては上着を脱ぎ又、お昼ご飯の時は寒いと肩をすぼめました。なんか今年はどんぐりが少ないのかなあ、篠山は猪が多いと聞いているのに食べ物は大丈夫?なんて落ち葉を蹴散らしながら山城址を通り下山しました。八幡神社の境内で入念にストレッチを行い迎えのマイクロバスに乗り新たんば荘には16時過ぎに到着。部屋割りの後ゆっくりと入浴し疲れた体を温めました。18時から宴会が始まり会長の挨拶、乾杯の後、和やかに美味しい料理(猪鍋も)やアルコールも入り

身も心も満たされました。お名前も知らなかった方ともお話が出来、又、かくし芸の披露や、皆で肩車を組んでの雪山讃歌の合唱等に楽しい時間は流れました。

2日目は篠山市内散策にあてられ、私達はかなりの集団で篠山城址の方へと歩き出しました。



時間がたっぷりありましたので鳳鳴酒造の酒蔵見学や、丹波焼栗の試食等又おいしいお茶を頂きながら和菓子を味わい、お昼ご飯には特産の篠山牛ととろろ芋のコラボを頂きました。手いっぱいにお土産を持ち本当にゆっくりと散策を楽しむことが出来ました。町並みは城下町らしく白壁の作りが多く景観にも随分配慮されているのが感じられました。

無事に納山会迄こなせたことに感謝です。

ご一緒させていただいた皆様本当に有難うございました。



■高御位山縦走

- 山 行 日：12月20日(土)
- 参 加 者：L 和田 SL 砂川(延) 田羅間(易) 田羅間(勤) 西口 森下 森本
- 行 動 記 録：駐車場 8:15 発～北池(8:35 着)～衣服調整(9:05 着)9:10 発 ～高御位山山頂(10:15 着)10:25 発～鹿島神社(12:05 着)～駐車場(12:30 着)

◆◆「高御位山縦走山行」に参加して

西口

天気予報では、午前中80%の降雨予報が出ていたが、予定通り師走の20日に「高御位山縦走」に参加した。当初13名のエントリーがあったが、降雨の為なのか不参加者が続出して、7名で山行することになった。

8時に集合した時はまだ曇天だったが、登山口に着くころにはやはり雨が降り始めた。テンションも下がり気味になるが、「覚悟はして来た。頑張ろう!!」と、気を引き締めた。

高御位山頂には10時15分頃に到着した。この頃になると雨も本降りになる。高御位山には何時も登っているが、雨降りだと登山道も景色も違って感じる。足元も何時もより注意を払っての山行になる。分岐でリーダー和田さんが、砂川さんに「百間岩を下りますか？」と、尋ねると、答えは当然だった。私は、百間岩の下りは不安なので砂川さんの後を下りる事にした。

雨降りの「百間岩」の下りは初体験。やはり恐怖感は払拭出来なかった。

山行コースも短縮となり「鹿嶋神社」に下山した。参加者も少なく山行時間も4時間程で、2014年「高御位山」山行の登り納めは終了した。リーダー・参加者の皆さん、本当にお疲れ様。

